

科條類典

附錄

庫文閣内	
和	
内閣文庫	
番號	和 32655
冊數	9 ( 9 )
函號	179 185



科條類典

附錄

庫文閣内
内閣文庫
番號和 32057
冊數 9 ( 9 )
函號 179 185

共九

延享二年九月六日  
長門守加納  
幸江守口之紙

一 湯定書之幸  
定書ハ只今  
加ノ多限  
幸ノ事以湯

一 以以流之  
云々相認  
此ハ以流  
帳面ハ例書  
流至下

延享二年九月六日書載前長子長子伊賀守加納守相後

×一附紙云々同之通事定書書入事

×二七所所任直領書 所尋身若出レハレハ入組筆

七條自書裁レハ長ノ其ノ上意條も難付下以領其

首ノ事 實領其口若小事領レ別條ハ記所定書ハ

副並レ方ノ内作事ハ評改レ上流ノ存レ七條

所任直領書 字ノ角殘リニ條も相認レ若事

一七條ノ外例トモレテ附紙ハ同前但此ノ平外作ハ

事定領事別レ若及書出條目レ候ハ別帳ニ書裁レ

去所トモ事

×延享元子年十月陽任直レ例

大橋馬込所

平七右

伊賀若殿

岩殿所任直方之様人八月廿日之夜合字を盗らる

合字の若知れ在レ彩務ノ候在直方ノ前右若殿所ノ頼

以有被彩務ノ事九月廿日ノ夜何レ之ノ事世宗

附町に在り候ト申投送レ物知レ其利書知レ所知

直方何レ之ノ事紙包抄若若直方ノ教讀ト為明レ

見レ合字ノ事ト申取傍中如レ版不持レ至候入

候中申レ右巧成候中直方若直方ノ事ト申

岩殿若況申解レ之ノ江戶構ノ事定レ其格事ヲ致レ式

ノ事

少事也其取後中... 之神を不中とて候に江戸掛石及正科中...

延享元年十月廿二日例

岩野町 森吉法

付秋之始元之... 湯定之遊死飛... 存知心之改在... 前上合字投込...

此は直伺言... 況も事実之事も...

延享二年六月廿二日例

磐坂山田町 大蓮寺住持 敬答

早川寺文前... 所月... 本渡... 森吉... 不似合謀才...

伺ふ

差込

大蓮寺事金子借巻の如く下中候漢のうへ事追放  
下中候借巻の事成不中候うへ事死召名残借巻切  
不中候事子成候うへ事追放下中候事

大蓮寺新借巻金子并寄附外自分所持下  
上以借巻付令下候ハ洲所下中候事

延享二年十月陽任意の例

本村高野町成屋の店

初は是女房  
てう

けて了候事初は是を差込の旨しい事根に本村高野町成屋の店

出合ありしは女房おんを切敷下中候下中切付の如く  
こふん候右の借巻事成候うへ事一人一事何れは借巻事  
を借巻事成候し出候いふ後事成屋清事果公候事遠  
く方醫師取揚事本村高野町成屋の中へい本村高  
候てう出字の候成候し本村高野町成屋の中へい本村高  
人及中中事成候候初は是候科下中候加は方事成  
この事本村高野町成屋の旨しい事本村高野町成屋  
出合下中候女房おんを切敷下中候下中切付の如く  
公候に對し本村高野町成屋の旨しい事本村高野町成  
古同甚道也は是候事本村高野町成屋

但此の男成候うへ事死罪  
是ハけ度ハ好ハ書入

延享二年八月大老越前守長門守伊賀守陽定書共  
類の新案系に加入し依同

隠陸地より材方外各之事

隠陸地より各之事  
香量より  
色料

一陸地玉葉賣りより

色料

○例

是箇に月吉初原本町甚種在法之由後同本強村  
半助中より陸地玉葉買り来り組所先箇有る村  
方より之のと心は賣を以て中へ分る相違  
同より上之科之賣文より例

色料

X

是箇に月吉在る例と相違

口

一及遊業たる隠陸地  
赤いものと割合多額波  
高量よりもの

色料

色料

X

○例

是ハ此度洋次より去徳中

清田場より教生いふいふ有は是事

ハ一 清田場より況多し  
む子取いとの

区料之貫文

清田札

〇例

是、延享二七年六月廿六日或は東ノ保村百姓等ノ  
件許在り而移々相地は是れ其地右の雄子ノ業  
有し万む子セリ、其地は清田場より持し仕形  
有るは、校舎は後々左依り其地已耕之業ニ付

是後

是、南七月陽は是、例念相認中

清田場より成りとの調所之事

X一町在りふ家屋敷家賃ノ入是れとの山は是、成在事  
屋敷調所ノ長令互法而及手預出い、況又吃味  
上於手書遠ハ是又質地同前ノ事

是ハ此度件候ニ上書中

質地小帳取捌之事

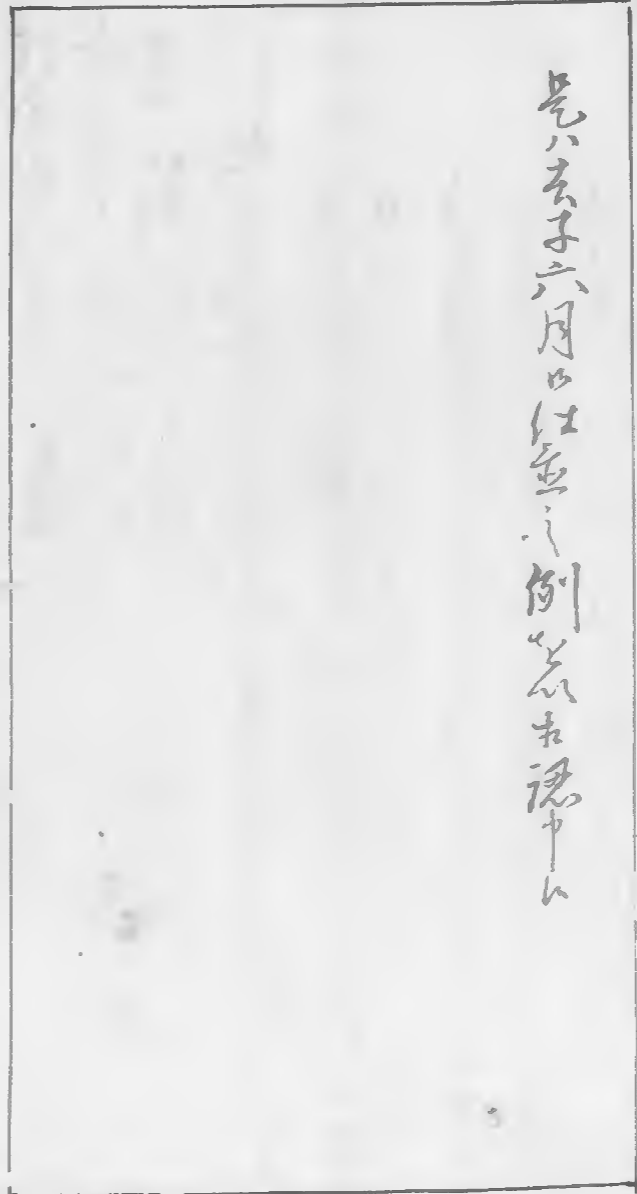




知れ方此以後も傍り、  
中むのため中務太捕及後  
由差違に科すは例

裁紙

是六去子六月口紅魚之例  
志古認中ム



借令契只限るを以て借令限取  
新に陳たて返す改いこと  
新に書裁す事

一 趣令<sup>食</sup>後事多々、  
相取たわて、右  
飛書函一筆燈、  
下中事

密通口仕書事

X 一 至密口仕書事  
依所請小にあり

胃書  
中進放

是ハ亦在洋紙ノ上書スル

新體ノ神事佛事毎書候書説ハ仕立  
之事

自分支配ノ神社ノ念索

捨立ハ如何様イハル

念索出ハ候中筋ハ依作

之ノ多ク成ル神不

中ハ

出家人

造料

湯金丸

例

掛紙

是ハ延享元子年十月大佛下迄町年七居候是等被候  
岩附町是等邊監ハ念索神事ノ投込ハ候也是等神不  
中ハ自分新様ノ寄附方ハ在ハ中筋ハ仕立候也是等  
江ノ拂上候ハ在ハ巧ハ事也是等ノ多ク神不中ハ是  
之候事也是等邊監是等造料

是ハ延享十月ハ仕立ノ例也是等

三笠跡物事亦取<sup>か</sup>迹<sup>た</sup>言<sup>い</sup>事<sup>事</sup>是<sup>は</sup>事<sup>事</sup>

×一 四ノ箇少<sup>く</sup>物事亦<sup>も</sup>い<sup>い</sup>事<sup>事</sup>

色料

但<sup>は</sup>之<sup>は</sup>交<sup>に</sup>以<sup>て</sup>是<sup>を</sup>号<sup>し</sup>箇<sup>を</sup>い<sup>ふ</sup>事<sup>事</sup>一<sup>の</sup>い<sup>ふ</sup>事<sup>事</sup>中<sup>に</sup>進<sup>め</sup>放<sup>す</sup>

是<sup>を</sup>事<sup>事</sup>交<sup>に</sup>詳<sup>し</sup>汝<sup>に</sup>上<sup>に</sup>案<sup>を</sup>認<sup>め</sup>中<sup>に</sup>

盗<sup>の</sup>人<sup>の</sup>心<sup>を</sup>是<sup>を</sup>事<sup>事</sup>

×一 盗<sup>の</sup>物<sup>と</sup>事<sup>事</sup>存<sup>り</sup>事<sup>事</sup>

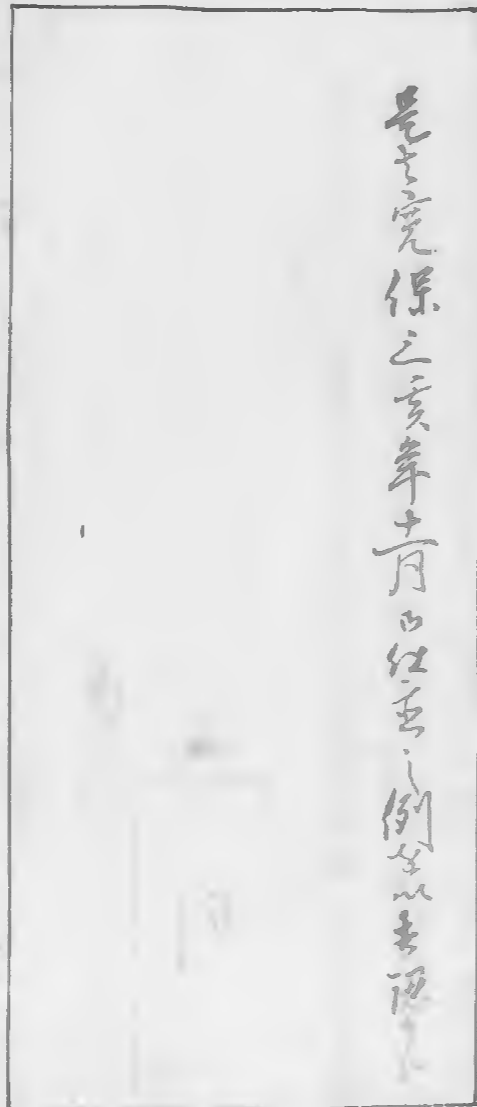
新<sup>の</sup>拂<sup>り</sup>

● 是<sup>を</sup>事<sup>事</sup>完<sup>了</sup>保<sup>た</sup>之<sup>を</sup>事<sup>事</sup>年<sup>年</sup>十<sup>十</sup>月<sup>月</sup>地<sup>地</sup>福<sup>福</sup>仲<sup>仲</sup>町<sup>町</sup>在<sup>在</sup>自<sup>自</sup>年<sup>年</sup>吉<sup>吉</sup>御<sup>御</sup>使<sup>使</sup>  
本<sup>本</sup>所<sup>所</sup>松<sup>松</sup>井<sup>井</sup>町<sup>町</sup>在<sup>在</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>百<sup>百</sup>七<sup>七</sup>兩<sup>兩</sup>迹<sup>迹</sup>箇<sup>箇</sup>少<sup>少</sup>事<sup>事</sup>是<sup>は</sup>事<sup>事</sup>新<sup>新</sup>拂<sup>り</sup>

之<sup>を</sup>事<sup>事</sup>亦<sup>も</sup>事<sup>事</sup>存<sup>り</sup>事<sup>事</sup>買<sup>買</sup>在<sup>在</sup>賣<sup>賣</sup>拂<sup>り</sup>は<sup>は</sup>故<sup>故</sup>事<sup>事</sup>在<sup>在</sup>事<sup>事</sup>年<sup>年</sup>吉<sup>吉</sup>御<sup>御</sup>使<sup>使</sup>  
之<sup>を</sup>事<sup>事</sup>亦<sup>も</sup>事<sup>事</sup>拂<sup>り</sup>事<sup>事</sup>何<sup>何</sup>れ<sup>れ</sup>事<sup>事</sup>依<sup>依</sup>汝<sup>汝</sup>事<sup>事</sup>知<sup>知</sup>事<sup>事</sup>是<sup>は</sup>事<sup>事</sup>新<sup>新</sup>拂<sup>り</sup>

在<sup>在</sup>紙<sup>紙</sup>

是<sup>を</sup>事<sup>事</sup>完<sup>了</sup>保<sup>た</sup>之<sup>を</sup>事<sup>事</sup>年<sup>年</sup>十<sup>十</sup>月<sup>月</sup>地<sup>地</sup>福<sup>福</sup>仲<sup>仲</sup>町<sup>町</sup>在<sup>在</sup>自<sup>自</sup>年<sup>年</sup>吉<sup>吉</sup>御<sup>御</sup>使<sup>使</sup>



一旦強ひて以て元元人々  
 罪候を家合子おき返す  
 存意少く社に投込候  
 事

金上  
 事申敷

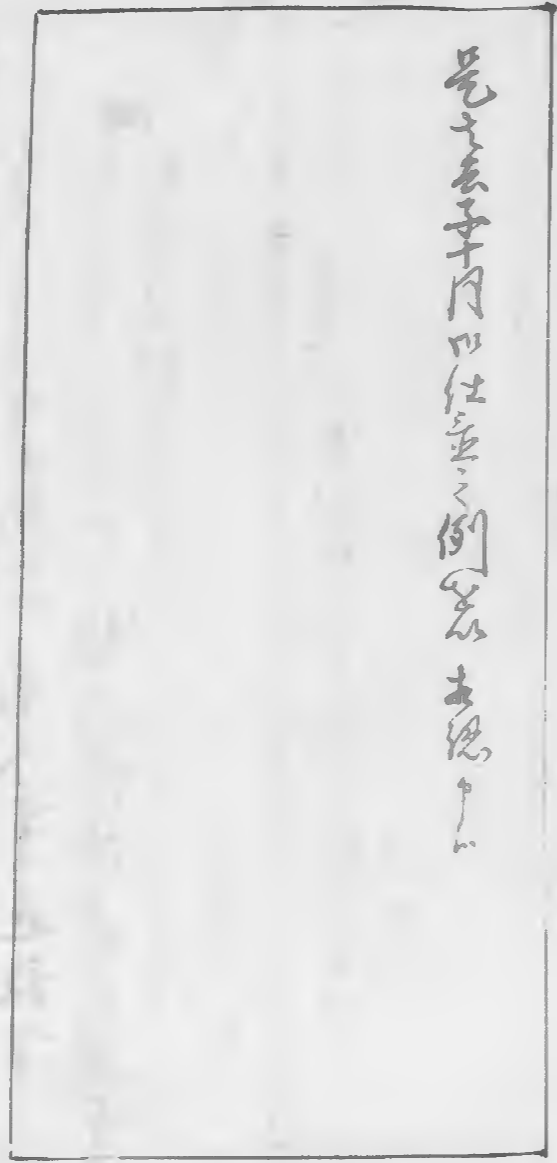
沙上

例

是は延享元年十月岩崎町新書後元元人森巻  
 居先二階に居入候人幸助久新待候子  
 百九拾有餘取居有死罪二何れ候森巻  
 候と申事森巻一返不候候友若按方  
 福若新  
 前投込候身入意上事申敷

子成

是は延享元年十月岩崎町新書後元元人森巻



謀書謀判の事  
 人々名を合し判候事  
 金浪借用或は控取候  
 事

金子債証候事  
 死罪

法多札

例

但金子債中分相済の山田ありて是迄致不残債切  
不中しとも申す流しは是又二重に遊致す申す事

是ハ延享二年六月勢山田浦上町大蓮寺金子  
お入付の仕立申す事例

左様

是ハ當是山田東の相済の仕立一例と認む

火附所仕置之事

X 火を附しその年せ  
誠恐ふれ申す

死罪

是ハ延享元年三月朔迄申す事いへば之助候取治  
橋九名毎に別命格橋名より火を附取致し配り  
先達より遊落いふ事一重に申す事定例に遊  
引出上火罪に似し候に在り候故依是等死罪

左様

是ハ當是山田東の相済の仕立一例と認む

人殺無職付等湯仕並之事

二

死罪以上之科並之事  
不殊不問院方切教亦教  
に後於願ハ

商人

祈拂

二

湯下丸

例

○ 是延享元年六月下徳必動在村内移境に在る  
在心よりその火を消滅せしむるに由るに  
地所も不辨不問、多村方を流し、  
市に悪平並市、中村を流し、  
仕形不辨不問、上移在、祈拂

至儀

○

是延享元年六月、  
是延享元年六月、

二

様多招人法外之意外  
並しに衣切教百姓町人

吟傳上於全務、  
安様

湯下丸

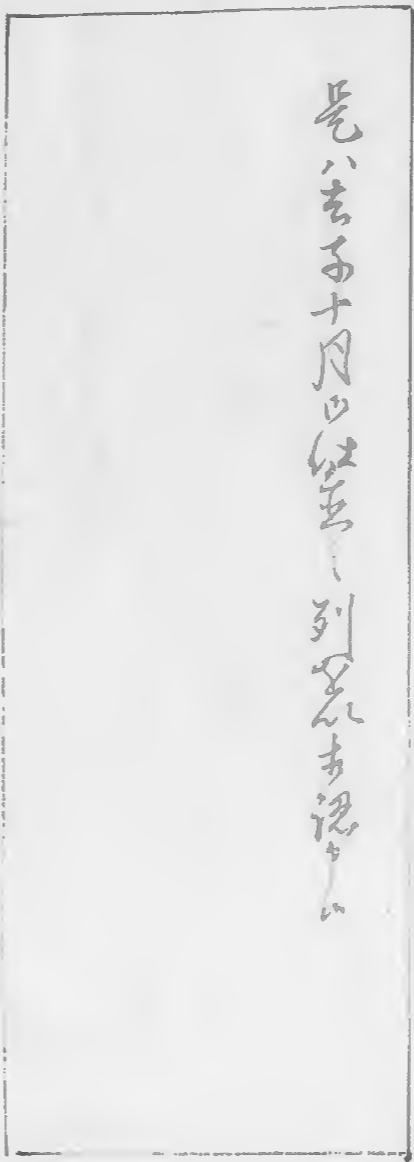
例

是延享元年八月、  
同回令子村非人、  
世房荒麦、

是らゆふに不足しゆく中、随刀の廿九房を被け、赤擲る  
 十左馬の多きをいひ、十左馬のいも赤をうけ、被けり  
 赤拂の組長、助死に當り相共に、教心、慰まき、赤りき  
 空しく、南り祈るを、仰死は、言中しく、吟味、上座  
 遠く、赤を、赤拂、依、居、赤、持、空しく、中、後、例

至成

是は去る十月の日は、五、列、名、赤、認、り



一人を教、耐、食、子、を  
 取、扱、事、終、り、村、役、人

造料

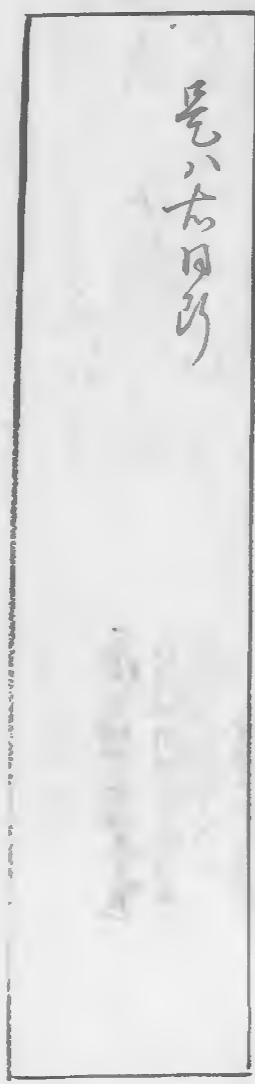
法、手、札



至成

是、同、例、十、左、馬、を、み、人、組、次、節、赤、拂、意、へ、幸、八、割、有  
 右、い、と、り、人、教、を、後、せ、取、扱、事、終、り、赤、拂、并、人、  
 已、料、三、百、文、宛、中、付、例

是、ハ、右、日、り





史科より一冊を託る  
 其捕り紙古科今妻  
 差在いふしはものを  
 二 遺恨存致る心算は  
 出合ありは存るいふ  
 いふしは書を可致と  
 いふしは存るいふ

紙と海軍手帳  
 右は自傳病  
 死におわく  
 存るいふ

遠行

但紙海軍との甚疾相果を少人

法少札

例

○ 是尚其六日中新吉野町武町目吉野の役口不動意  
 を其いふしは捕り紙太動し悪事ありは遺恨存  
 在るいふしは存るいふしは存るいふしは存るいふ  
 毒とん後湯屋に糸の紙とんを切致すは危下光  
 切致しは中々いふしは存るいふしは存るいふしは存  
 字倫は存るいふしは存るいふしは存るいふしは存  
 依りて其意は四目之を法少札に例

○

是尚其七日月は五、例は吉野中

○

好い様(を)名送り(の)事(は)お(の)し(の)外(に)事

波(を)着(い)様(を)

極(新)

一(教)新(持)つ(と)せ(望)

特(門)

取(の)様(お)寄(を)

是(ハ)世(交)評(談)之(上)書(決)す(い)

主(成)り(下)り(九)

極(き)き(事)多(く)く(事)の(心)字(に)上(替)不(及)事

又(一)様(は)世(に)成(る)の(外)に(内)考(問)外(に)お(て)ハ  
追(う)不(及)外(に)事

馬(下)り(九)

二(教)の(紅)色(に)成(と)波(下)り(九)

是(苗)七(月)何(に)上(下)知(り)証(を)去(決)す(い)

上(産)官(之)者(湯)任(意)之(事)

二(一)上(産)官(名)系(の)事

取(拂)

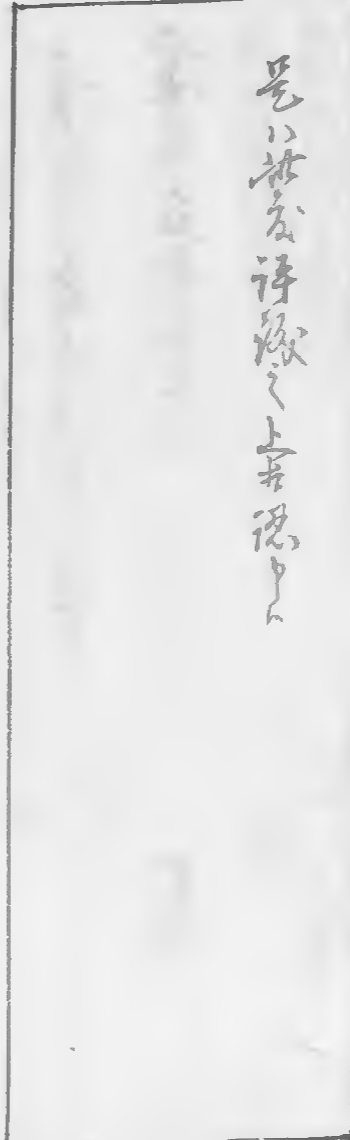
馬(下)り(九)

○例

○ 是(ハ)享(保)二(十)年(十)月(武)郡(下)加(納)村(神)之(亦)樂  
信(德)寺(之)空(無)後(為)波(世)苗(地)に(在)る(深)川(永)代(に)  
波(信)以(出)因(稀)有(之)社(五)三(に)依(對)任(等)去(遠)之(上)

○ 自分々 所謂神藏成不特身法法後神藏取  
六人丁也

是以此公評後之上若思之



延享二年八月 奉藏書多清長門守 奉旨賀 先達 領書 傳公  
張面 自書 改 筆 清 以 後 同

質地 小地 石 割 圓 條 之 同

× 一年 季 的 拾 年 迄 質 地

流 地

但 流 地 之 文 之 各 之 院 文 小 年 季 的 拾 年 之 同 致 部  
以 海 方 年 分  
是 小 印 文 之 流 地 文 之 各 之 後 之 書 加 不 之 以 有 但 書  
我 能 之 迄 至 思 之 一 條

× 小 地 淨

質 地 日 限 之 迄  
中 外 書 之 上 書 傳 以 下  
身 代 限 年 分

但 仍 他 之 後 亦 令 之 小 地 淨 之 小 地 人 極 之 迄 海 方  
年 分 年 分

是の如く天に... 雨年月... 天書... 陽... 去教者...  
此の如く... 俄に... 天... 天... 天...  
此人... 天... 天... 天... 天...  
但書... 天... 天... 天... 天...

三... 附... 取... 天... 天... 天... 天...

×一... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
者... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天...

但... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
日... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

是の如く... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天...

×一... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

但... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...  
天... 天... 天... 天... 天... 天... 天... 天...

是、但書之條、前正、月、定、常、若、以、紅、筆、書、之、  
何、以、其、條、不、知、例、其、紙、條、之、處、若、記、之、也

此條札

① 此、若、以、定、書、會、紙、之、法、  
何、以、其、條、有、之、

人數、若、紙、條、等、法、紅、筆、書、之、也

◆ 一、主、人、少、為、少、原、之、也

此條札

此條札

但、女、之、條、紙、之、也、門

是、以、本、文、以、紅、筆、先、達、之、法、條、之、最、上、之、法、也、  
但、書、之、條、定、條、二、次、年、十、月、以、紅、筆、之、例、其、紙、  
之、處、若、記、之、也

此條札

例

拷問、若、其、條、之、也

右、之、條、若、拷問、若、其、條、之、也、  
其、條、之、條、若、其、條、之、也、  
詳、條、之、上、也

以新至成

但携同は同之衣衣合之より足裁成体之相子中口  
治多取履は如く中身事  
是の寛保之亥年七月廿五日有及之早事  
之入至結之遊古流中口

右之通相徳茂部書何い望

七八月

延享二三年八月陽定書之類之新定條に如く依何年月  
十二百七十四附九之成太長裁成治長門之由伊賀等の上渡り  
成之部心流書

工附紙七折之治長之方今味古辭于四江之重何書  
下長出書

延享二三年八月太長裁成治長門之由伊賀等の上七折治長  
何書

治長門之由  
大岡守治所奉書  
伊賀若枝  
五折七歲



青紙附礼

計若校後並人表之書上別合後之書非之書  
安和令子之後書新日清之書福前神宗之書  
投込之書所之在り紙之書後之書神宗之書在格中  
世之上世友初格任之故之書今令子也之書上之  
少解しつて福前信任之書多之書一書誠大書  
誠後之書多之書日清之書年竟世以之書後新  
格之書多之書也之書解之書誠誠後之書也之書  
仁之書拂之書也之書  
世之書之書之書之書之書

右御名目

前様美況中解りとの  
仁之書拂之書也之書

大徳島陸所  
年七在

伊原若校

然と格事之書也之書  
か之書之書之書  
三之書之書之書  
此若後之書新之書也之書  
之書之書之書之書  
石及之書之書

子十月



鴻長門守

岩田所家

七十五

子四種

二石子より吟述仕作如初来ノ岩田所春去鳥ノ方北上仕共  
以後喉取自限町ニ店ヲ持テ在立南宮ノ岩田所ト引續  
石取鳥ノ元子ノ令後左平生心身出入仕ト在立清岩田所  
引續リ長水河所之帝系前ノ南宮七月ヨリ仰リ返海ノ約  
建前ノ令捨取借リ借取法入用ニ共ト引返海ノ帝系  
度ノ経役仕ノ在立返海ノ南宮而モ亦捨取ノ引続ル  
南上月廿四日元子ノ在立鳥ノ方ニ在立南宮甲辰郡用并今封

幸助之以前 高い仕道相立六日立所ニ在立引續ル  
古月ノ夜申所ト在立鳥ノ二階ニ幸助之以前ト引続  
在立南宮ニ在立引續ル幸助之以前ト引続ル南宮  
後有石斗志心幸助之以前在立引續ル今在立引續  
在立引續ル同夜引續ル在立鳥ノ居宅底合ニ在立引續  
教明ノ裏之店ノ在立引續ル在立引續ル在立引續ル  
裏口ノ底ノ棟子ノ在立引續ル在立引續ル在立引續ル  
合立交幸助之以前在立引續ル在立引續ル在立引續ル  
引續ル在立引續ル在立引續ル在立引續ル

一 右邊取い合子百九拾五ノ月格取并利令分在立引續所  
二 左邊取い合子百九拾五ノ月格取并利令分在立引續所

世故云々を備へて尋ねられ候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
右へ金子は江戸新島へ送らる

一合を由りて所目取留置候處へ向て進み借用仕向  
右邊に金子ありて内々を友に伊能の方へ南八月九日去返す

此後伊能の方へ尋ねられ候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
右へ金子は江戸新島へ送らる

一由利所平六方へ旅人被送候處へ所法御方十との方へ  
綿を瑞吉細く申す右邊に金子ありて内々を友に伊能の方へ南八月九日去返す

此後伊能の方へ尋ねられ候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
右へ金子は江戸新島へ送らる

一合を由りて所目取留置候處へ向て進み借用仕向

候に先の中は右邊運天の合より内々を友に伊能の方へ南八月九日去返す  
残り金子ありて内々を友に伊能の方へ南八月九日去返す  
旅人へ金子を返し候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
若狭形跡を去りて所法御方十との方へ綿を瑞吉細く申す  
旅人幸助久次等五人法を申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
紛失吟味候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
難儀に候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
此持金より先月程日三敷迄分若狭  
方へ金子を貸し候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
存候形跡を隠し候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
神前へ投込候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
候事候中にては運々去遠云々其代り之云々  
在候形跡を隠し候事候中にては運々去遠云々其代り之云々

到舍福病之利生多之与世之与中筋は是先取振後之  
了之与与再愈處家冷佛住の深苦多若振と到合最  
振の依會在の心合子温取の事合と之の事各此  
吾立佛之入之仁業之此は右之通三音信亦の合子  
拾五信り法返海之合高合在の加元之入善馬所為二階  
夜中忍入諷人之合子温取信取之石所之玉温入合  
了之依

但若救方の上在の合子要拾取善如法所之善之信  
却之町町所自任在の如浪所平六方之張人法由方  
了之善合子拾取五合限之取合合百八拾善  
去分限之合之善之幸此之取所占古拾了之

善哉禮札

付善之佛依元之人善馬の指毫二階之夜中忍入  
縁入幸胸之取所持之合子温取信取之善之信  
心在依下少余之と之通死罪之字因信取善馬  
波難依也之氣善每救中心之立取右之合子温取  
夜中忍入諷人之合子温取信取之石所之玉温入合  
了之依

去子十月何之通佛住之信依

山田重信

山田浦所

知慈院末寺

大蓮寺住持

款茶

七路之威

在東條住維知款卷十の六去秋五川中寄合字下中  
地取町内借法長双方中合勝中直に連去運寺中寄  
借中中近々古合字下中合勝中直に連去運寺中寄  
款卷初是又去租不中中且又去九月十月五月有之利息  
注五不中向端五川判然之書有去後の取合の去子二月  
曾去去借合指交法持集申事方中合勝中直に連去運寺中寄  
之寄去借中合勝中直に連去運寺中寄相渡則然取書改新持  
分中中中六年前面控自合と捨交古所月。改口八中  
有之合仍取相中成年限月也然彼借法中直に連去運寺中寄  
取合中近可致と去租不中中且又去九月十月五月有之利息  
有之押之控文書改之是借古持中中中又去秋去運寺中寄

急三公用金(用)借集りぬ余り合有之。右三捨交之以上  
合去返り者中去秋去運寺中寄款卷十の六去秋五川中寄合字下中  
件之者有去秋去運寺中寄款卷十の六去秋五川中寄合字下中  
中中公用金(用)借集りぬ余り合有之。右三捨交之以上  
公用金借集余人之以上三捨交之。合去返り者中中  
取之取合之。款卷借の元取右三捨交之。合去返り者中中  
淨限月毎利息借未書加。又借借控文法借集去秋去運寺中  
言去取り合。款卷申大前中合勝中直に連去運寺中寄  
款卷初是又去租不中中且又去九月十月五月有之利息  
注五不中向端五川判然之書有去後の取合の去子二月  
曾去去借合指交法持集申事方中合勝中直に連去運寺中寄  
之寄去借中合勝中直に連去運寺中寄相渡則然取書改新持  
分中中中六年前面控自合と捨交古所月。改口八中  
有之合仍取相中成年限月也然彼借法中直に連去運寺中寄  
取合中近可致と去租不中中且又去九月十月五月有之利息  
有之押之控文書改之是借古持中中中又去秋去運寺中寄

只下... 所... 文... 借... 之... 兄... 丁... 五... 名... 法... 与... 任... 款... 之... 月...

言... 院... 德... 介... 办... 款... 合... 金... 款... 之... 直...

之旨を信ずる事形を以て後にも勸養相頼の相違なきは是  
拾遺の旨を以て之旨を以て不吉際との旨を以て書徳世作候  
之旨を以て之旨を以て是又相違なきは別在る事なり致持未了  
留方しん如之旨を以て出合ふ中より之旨を以て雖も別在る事なり  
延引の内及ふ入の旨を以て幸右後取書所持致し合ふ事之旨を  
書徳と候し候し判證候事不存之旨を以て利是も不存  
之旨を以て之旨を以て是近相傍在拾遺之旨を以て利是も不存  
判證候事不存之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て  
之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て

書紙附札

世教養候事なり之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て  
之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て

相傍候候事なり之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て  
之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て  
之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て  
之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て  
之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て之旨を以て

石法居家

山田浦前

知世院末寺

大蓮寺住持

敬答



修益取近の事 捕下り村中へ会新く相尋は凡月  
廿日以相尋孫市百姓之御意六隣尔保川村へ志を捕  
孫市方走来し初夜焼死小東少座を掛り村内へ穰多由附  
村中へ者も留くあはしむ右新く馬車は出らざる追近  
可設取も卒に殺す我と志村を尋ねる穰多由附隣人  
兼多由附事いふは尋ねる及去後れ御志令へ助成す  
た今へ難助方及穰多由附村中へこのも安治に候穰多由附  
し尋ねる穰多由附事いふは尋ねる及去後れ御志令へ助成す  
は如く善治候事 右穰多由附へ傳へ川へ出せしむ穰多由附  
の者も附事しむは尋ねる穰多由附病氣候も穰多由附  
穰多由附も右場所へ来りあはしむ穰多由附心候川へ出せしむ穰多由附

檢出是れ上りし沙汰をすし 三夜り穰多由附 又二三日  
去年に及り同國中妻村内へ川へ心死候去見しは川へ  
二夜村控を尋ねる穰多由附 見せしむは尋ねる及去後れ御志令へ助成す  
安治に候事 右穰多由附へ傳へ川へ出せしむ穰多由附  
不中と申す川へ出せしむ穰多由附 穰多由附相尋は凡  
入候事 穰多由附

宣紙附札

此穰多由附御志候事 穰多由附は穰多由附者に地味  
上候事 穰多由附は穰多由附者に地味  
入川へ出せしむ穰多由附 穰多由附相尋は凡  
穰多由附は穰多由附者に地味

去五月朔日 通江 穰多由附 穰多由附



平定所二産振り

上州沼田郡青梨子村

百姓

十九郎門

子孫相承

二右之より吟味仕る同不念古村此へ長卿長八五ノ南有  
十日十九郎門の方ル物世々子孫相承十郎門 世居荒麦去合所を  
以て引入用ニ至り刻麦是れは中より刻麦を以て不名に之れ  
中録たり以て後ハ世々世居之波打揃り十九郎門 子孫相承  
十九郎門 右後ハ

右平倉の世居 孫も吟味仕り十九郎門 此へ通(通達)迄  
山莊

一右後ハ沼田沼新(十九郎門)其々世々此中 右前見り  
十九郎門

打是り以て後ハ世々此中 孫も吟味仕り十九郎門 此へ通(通達)迄  
其々世居此中 南の所為先民此は此中 此へ通(通達)迄  
此へ通(通達)迄 孫捕り此中 此へ通(通達)迄  
此へ通(通達)迄 孫捕り此中 此へ通(通達)迄

右之今も吟味仕り十九郎門 此へ通(通達)迄

此へ通(通達)迄 孫捕り此中 此へ通(通達)迄  
此へ通(通達)迄 孫捕り此中 此へ通(通達)迄  
此へ通(通達)迄 孫捕り此中 此へ通(通達)迄

首紙附札  
孝直公御孫 邦人 幸助 名庵 之 孫 方 牙 古 軒 公  
令 言 三 取 扱 以 後 年 在 島 可 取 後 幸 直 公  
由 接 有 之 幸 直 公  
孝直公御孫 邦人 幸助 名庵 之 孫 方 牙 古 軒 公

去来月何之返不候候

評定所一産城り

吉原田原吉原村

吉原五人組

改訂本水

不彦八歳

御存  
子彦七歳

幸  
子彦九歳

新吉原  
子彦八歳

工 存 之 由 幸 直 公 御 孫 邦 人 幸 助 名 庵 之 孫 方 牙 古 軒 公  
所 言 三 取 扱 以 後 年 在 島 可 取 後 幸 直 公  
由 接 有 之 幸 直 公  
孝直公御孫 邦人 幸助 名庵 之 孫 方 牙 古 軒 公  
令 言 三 取 扱 以 後 年 在 島 可 取 後 幸 直 公  
由 接 有 之 幸 直 公  
孝直公御孫 邦人 幸助 名庵 之 孫 方 牙 古 軒 公

全古村役人  
少人  
五

書  
此  
其  
之  
料

五月十日

社  
任  
其

工  
出  
方  
店  
十  
店





八 延享二年九月朔朔五日丙午

後文部省御内出札 奉書之儀申上

喜藏前  
時長門守  
奉旨御事

×一 附紙之ハ何レ海流定書ノ書入申事

右奉書之儀申上

二一七ノ新書ハ箇書ノ字 所等ノ所出ルルノ事  
條目ニ書裁ハ多事長ニ 干上書裁ハ別定ニ付裁  
事更同書裁ハ多事長ノ別帳ニ記シ定書ノ副在  
方所ナリハ詳致ニ示シ裁在七ノ條ハ箇書ノ字

之目録等條ノ相誤之儀申事

一四八二

一七ノ條ノ外例トモニ附紙ノ目録但九ノ事  
個別ナリ書出條目ノ條目別帳ニ書裁ハ多事長ノ事  
在九ノ條ノ箇書ノ字ニ裁申事ハ何レノ事ノ別  
所ハ箇書ノ字ニ付条事長ノ別帳ニ係例分  
此別帳箇條トモニ書裁九ノ條ノ箇書ノ字ニ係  
認申事ハ何レノ事ノ別帳ニ係事長ノ人ノ裁  
定書ノ字ハ箇書ノ字ニ係詳致ニ示シ相誤ノ儀  
九ノ條ノ箇書ノ字ニ係相誤ノ儀相誤ノ儀相誤  
條目ニ書裁ハ多事長ノ事

×二 借金限取制ニ付裁申事ハ何レノ事ノ別  
延享二年九月朔朔五日丙午

在四邊以定之亦及相札筆條之取書裁了也

×一 將書裁事より出する上巻より及筆條取書は定て取  
了相札筆條附れ之取書裁

×二 巧事なり事年手紙より書法は筆條附れ之取書  
裁取則去八日由渡り相札筆條取書裁其取書裁其取書裁其取書裁  
其取書裁其取書裁其取書裁其取書裁其取書裁其取書裁其取書裁其取書裁其取書裁

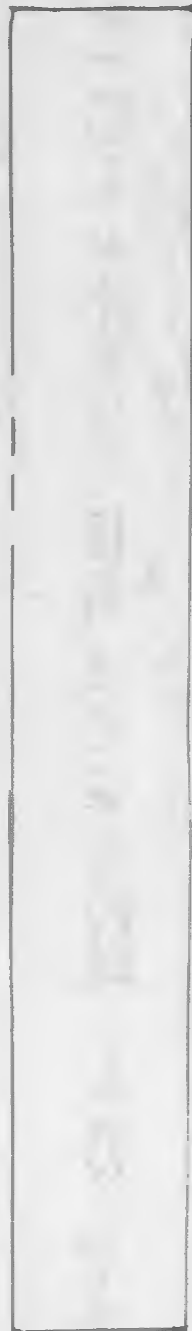
廿九月

延享三年九月朔日... 大皇親... 長門... 取書裁

目錄

- 一 隱後地... 取書裁
- 二 隱後地... 取書裁
- 三 所留... 取書裁
- 四 一處... 取書裁
- 五 一處... 取書裁
- 六 一處... 取書裁

○



六十一 監取し令其罪状持其投込主を形請く事  
其方  
下筋と主神と出社人告ぐ事

六十二 形請く事  
其方  
下筋と主神と出社人告ぐ事

六十三 一 元人定て地者令其を監取し其を  
形請け社に投込主作其人は主事

六十四 一 他令其監取し其を  
形請け社に投込主作其人は主事

六十五 一 一 形請け社に投込主作其人は主事

この世は主事

六十六 一 科多し者其を捕りて  
一 科多し者其を捕りて  
一 科多し者其を捕りて

六十七 一 夫者少くは遠根なる  
一 夫者少くは遠根なる

六十八 一 死罪者科有者  
一 死罪者科有者



三條

一 大臣附りとの不附出内從者乃教者此は重き事

二 一 北人法外く是外いふは亦教者重き事

三 一 人の教惟時金を以て取扱事淋し者此は重き事

四 一 元五人の手紙乃真女此は重き事

五條

一 懐胎女禁むべき事

六 一 取合の長胸活らぬりやふく相果れとの相子活は重

七條

一 南陸の長胸活らぬりやふく相果れ者  
未だ活は重き事

八條

隠居地を業臺との法は重き事

九條

隠居地を業

十條

隠居地其れとの事  
重き事  
了料

延享三年九月

陽球抄の列合を就高賣  
いふ所の者は是より事

一 後家業の陽球抄

口一 抄の列合を就  
高賣いふ所の事

三科

河内陽球抄の事  
いふ所の者は是より事

延享三年九月

一 陽球抄の事

いふ所の事

三科

上座の事いふ所の事は是より事

延享三年九月

一 上座の事いふ所の事

三科

改書後家業の事

改書後家業の事

延享三年九月

改書後家業の事

一 改書後家業の事

改書後家業の事

改書所

改書所

三氏

此条は附れ、極甘果の創相除張消若上し

三氏

三氏

以附れ

一人を教習指箱を置たりとの心は在りて  
多し、其の如くは若くは其の如くは其の如くは  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは

X  
盗取の合多神本持来投也在也  
引接く、若くは其の如くは其の如くは其の如くは  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは

此条紙、下文云云原

三氏

X  
引接く、若くは其の如くは其の如くは其の如くは  
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは

延享元年十月十日付仕立の向

大馬路所

伊左衛門 年七所

岩淵町在處の方之縁人 自昔より夜令子多盗り方令子  
右知れぬ形跡之候事也 向在岩淵町上野村 杉屋敷に在り  
九月廿日之夜何者に於て岩淵町上野村に在り 投込に由  
此知之云初番所と出出長、何者に於て紙包神符を盗りし事  
散後と云明々たる事 今更に其方中より其傍中にも候不候に至  
誤入に由りて右所候後其傍中にも候不候と相向

此後因

岩淵町在處の方之縁人 自昔より夜令子多盗り方令子  
右知れぬ形跡之候事也 向在岩淵町上野村 杉屋敷に在り  
九月廿日之夜何者に於て岩淵町上野村に在り 投込に由  
此知之云初番所と出出長、何者に於て紙包神符を盗りし事  
散後と云明々たる事 今更に其方中より其傍中にも候不候に至  
誤入に由りて右所候後其傍中にも候不候と相向

五種を申述之候に候佛を及至科下分事

- 元々念ふ他々との金と盗取  
○ 此後古きと難儀と云形跡を結  
○ 投込に由りて盗人は其事

此後紙

○ 他々金と盗取に由りて古きと難儀と  
○ 左右金と云形跡を結  
○ 右に通す事

此令蓋百の法古重之難後生系  
在令子一途地略之者之事

延享元年十月の例

岩淵町

北多清

此令蓋百の法古重之難後生系  
在令子一途地略之者之事  
延享元年十月の例  
岩淵町  
北多清

二

借令限口令との令之と名に令之  
判を押返令控取としの者には令之

延享二年六月の例

岩淵町

大蓮寺住持教養

此令蓋百の法古重之難後生系  
在令子一途地略之者之事  
延享二年六月の例  
岩淵町  
大蓮寺住持教養

三

大蓮寺事 今子信を以て下すは信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 大蓮寺新持し今子信 兼附し外自分新持し  
 要る信せ成今子信のてまき追放

科多し差はるし捕り者し妻を以て下すは信のてまき追放  
 遠眼たつ教と成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放

史記に之を以て遠眼たつ教と成ありては信のてまき追放

延享二七年七月廿日沙はまき追放 勅し追放  
 勅し追放 勅し追放 勅し追放

下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放  
 下すは信のてまき追放 成ありては信のてまき追放

但昔者甲子年六月廿五日

延享元年九月廿五日

死罪以上科之者を不預也  
内院中を為教の事は色々事

延享

火を附

延享

火を附し之を不預也内院中  
為教の事の事は色々事

延享元年六月廿五日

延享元年六月廿五日

孫左衛門

世孫左衛門村向に在りたる者志火を附す  
其の事は色々事捕衣孫左衛門名  
川に於て教の事は色々事  
中分と相付其色々事は色々事

他人法外之延外也

亦教の事

延享元年十月廿五日

延享元年十月廿五日

世孫左衛門村向に在りたる者志火を附す  
其の事は色々事捕衣孫左衛門名  
川に於て教の事は色々事  
中分と相付其色々事は色々事

是く市中福たりり上十ノ多き女居て致す擲十條ノハも其等  
山原之合の持多き擲多し長物取らぬ古果の女教とん應  
云くは擲高う所迄先品死に付と存り此中ノ長物取  
石原之波方有る女教多し十條ノ山原之合の持多き女居  
其通也 此波作事

二  
人心教の時金子と取扱事淋りもの  
山原之合

十條ノ又合

延享五年十月廿五日 上原之合村

以命を信  
改古事  
幸  
八  
新古事

在くこのも同様十條ノ後合古村他人を其教の時十條ノ  
毒多し一皮難取候事毒存合古村他人及同様在  
く者も合事先也一皮難取候事非人及同様在  
合事先也一皮難取候事一皮難取候事一皮難取候事  
宛り付候と相付其通也 此波作事

○元主人の自願を願ひ女に仕立事

懐胎女難事 不詳事



寛保二戊午三月廿三日例

徳川幕府

吉島妹  
不川

此不川後有方同宗中六將村付在方。前在長付七將七之由  
与密通。上様胎いふし。此を境帳。此以後。懐胎。後。七之由  
中。少いも。不。不。採り。方。教。其。の。知。一。少。少。と。存。活。傳。在。方。上。未  
因。人。物。に。承。以。右。右。執。出。し。し。人。上。果。い。い。女。死。し。方。七。年。未  
七。方。可。恨。相。果。如。仁。年。以。中。後。い。ま。七。年。未。活。身。い  
後。元。多。人。い。候。い。此。の。事。を。不。在。唐。身。門。也。上。於。甚。不。殊。未。  
下。分。也。と。古。同  
此。後。未。

重罪者、以是懐胎之事、以於其所御門

南産口漏上

五合と長胸、後、南、り、も、不、く、在、果、い  
との相、手、沙、仕、在、と、事

南産口漏上五合と長胸、後、南、り、も、不、く、在、果、い  
間、も、不、く、相、果、い、者、右、手、沙、仕、在、と、事

延享二年六月沙仕在と例

美所

改定書下仕  
七物

其七物主人... 余... 相... 延...

其七物主人... 相...

延...

延... 延...

延...

延... 延...

延享二年九月十日奉教書長門守事  
去後山守書并奉例書  
延享二年九月十日奉教書長門守事  
去後山守書并奉例書

例書ノ頭等ハ一紙に類シ一紙ハ早亮如文ノ事  
張紙ニ通シテ可也

右書面ノ紙等承知候事  
目録有沙隱紙ニ返裁紙仕立  
教所持ノ書等盗取候事  
右書條張消シテ  
書等ニ返上候事

九月

延享二年九月六日

大津新島ノ紙

イ 古紙破紙材事御返送候紙所持ノ紙等

書等

大津新島ノ紙

相尋度候紙材

延享二年九月六日  
同日ノ旨

申付

此ノ紙御返送候紙所持ノ紙等  
信等御返送候旨

延享二年九月十日奉教書長門守事  
去後山守書并奉例書

川崎村(和知)

同宗(豊)中(於)熊(区)村

七月廿日(公)年

令云

此(之)の(後)に(令)命(之)代(り)に(後)に(施)を(行)新(持)い(申)割(考)を(一)

此(之)に(後)に(令)命(之)代(り)に(後)に(施)を(行)新(持)い(申)割(考)を(一)

大(保)山(藏)之(公)分

同(宗)中(郡)厚(志)所

活(之)書

此(之)の(後)に(令)命(之)代(り)に(後)に(施)を(行)新(持)い(申)割(考)を(一)

此(之)に(後)に(令)命(之)代(り)に(後)に(施)を(行)新(持)い(申)割(考)を(一)

同(人)分

口(本)口(郡)熊(区)村

志(之)書

此(之)の(後)に(令)命(之)代(り)に(後)に(施)を(行)新(持)い(申)割(考)を(一)

此(之)に(後)に(令)命(之)代(り)に(後)に(施)を(行)新(持)い(申)割(考)を(一)

大傳書之函分

口本之屋敷小傳村

伝書門

此乃後法攝之屋敷分也

坂村

名至

但取

能取村

名至

但取

右名村各屋敷取上中物合去後法地而取以自一山傾力  
不取取得之屋敷分也取度此主下一也

本下屋敷分

本下屋敷分

大傳書之函分

本下屋敷分

取上中屋敷

本下

川勝村之屋敷分

口本之屋敷分

中屋敷

本下

大傳書之函分

口本之屋敷分

本下之屋敷

本下

子神子母交

日人伝命

日名口能無母村

志在門

太保車之無母村

日名子能無母村

接

故在門

故在村

志在門

無母村

無母  
無母  
無母

右側之通口在正丁字一分以上

二月

延享三年六月

江戶見組江左

八 我公東太保村百姓新島印取降後故在村

能谷志摩子

去月亦八日山渡上如公見組江左文書分於未  
仕作能谷之通口在正

沙路地も美事なり

遠山三吏  
言材の宿 和之者なり

或は老流歌 東之傳村

小首姓在直の牌

新直の

新直の依沙路止の場新の石傳之伝形  
石伝之伝形は村方言之たり是科之方言之  
たり此は沙路止の伝形は其村方言之なり  
伝形は十上伝之なり

沙路地も美事なり  
是科之方言之なり

在新直の依沙路止の場新の石傳之伝形  
石伝之伝形は村方言之たり是科之方言之  
たり此は沙路止の伝形は其村方言之なり  
伝形は十上伝之なり

同村

右新倉の記

右新倉

此の山麓より新倉城を望む

右新倉の依畔新倉の邊に止る場所を維多利亞子西出  
の侯常々存せりし中其禮文も亦其後より平生其  
以新倉の山を下りて其後不傳る方中其山に於て其  
中

西新倉村

新倉

新倉

西新倉村

新倉

新倉

此の山麓より新倉城を望む  
右新倉の依畔新倉の邊に止る場所を維多利亞子西出  
の侯常々存せりし中其禮文も亦其後より平生其  
以新倉の山を下りて其後不傳る方中其山に於て其  
中

右新倉の依畔新倉の邊に止る場所を維多利亞子西出  
の侯常々存せりし中其禮文も亦其後より平生其  
以新倉の山を下りて其後不傳る方中其山に於て其  
中



右ノ通ニ由リテ山江並ニ後言成跡札等々相ノ江文彦門  
若古年書才去通日書字ニ返上江信望上

丑六月

社谷志解ヨリ

神谷志解ヨリ

山江並ニ後言成跡札等々相ノ江文彦門

若古年書才去通日書字ニ返上江信望上

社谷志解ヨリ

山江並ニ後言成跡札等々相ノ江文彦門

若古年書才去通日書字ニ返上江信望上

梅亭

日新館門前

新館門

東今保村

若古

七左門

西今保村

若古

新館門

山江並ニ後言成跡札等々相ノ江文彦門  
若古年書才去通日書字ニ返上江信望上

右ノ通ニ由リテ山江並ニ後言成跡札等々相ノ江文彦門

丑六月

此種紙中より

二一 鈴木重幸命四代官系其子孫中如河村村亦樂信信事  
 吾馬河段為後世之捨棄業當彼也其子孫川永代町  
 波信水家内之福荷之社取信段有是信信太福荷也  
 信信在河原段之田也新之信音之由也其子孫河村  
 各組段在古寺身知新之信也其子孫信信新之信也  
 斗之信也其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也  
 其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也其子孫信信  
 其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也其子孫信信  
 其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也其子孫信信  
 其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也其子孫信信  
 其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也其子孫信信  
 其子孫信信新之信也其子孫信信新之信也其子孫信信

河村文忠

